

グループ会社の安全対策

● 運輸安全マネジメントに基づく安全対策

京王沿線を主な事業エリアとする京王電鉄バスグループ、多摩西部を中心に事業を展開する西東京バス、タクシー・ハイヤー事業を行う京王自動車、引越などの総合物流業務を行う京王運輸、御岳山でケーブルカーなどを営業する御岳登山鉄道の京王グループ運輸業各社では「運輸安全マネジメント」に取り組み、安全管理規程の制定、事故件数削減目標の設定、

安全意識の向上などを行うとともに、安全関連情報をホームページで公表しています。

また、社長以下役員が営業所を巡回し、安全管理体制の確認や、営業所員・乗務員と安全に関する意見交換を行うなど、積極的なコミュニケーションを通じて、輸送の安全確保を図っています。

主な推進活動

● バス

● 京王電鉄バスグループ

安全運転技術の維持・向上を目的として、全車両にドライブレコーダー※1を導入しています。また、関東の各民営バス会社に先駆けて「運転訓練車」を導入しました。「運転訓練車」には、アイマークレコーダー※2や安全確認装置※3などにより、運転の様子を映像と音声で記録するとともに、運転状況をチェックできる車内モニターが備えられています。

さらに、安全運転中央研修所で行われる「バス運転実技4日コース」に乗務員が参加し、通常では体験できない運転上の危険などを体験することで、安全運転に対する意識の向上

を図っています。

そのほか、左折時や進路変更時の事故防止を目的として左折チャイムを導入し、路線バスに車内確認用の補助ミラーを設置しました。

※1 ドライブレコーダー：車内外に設置されたカメラとマイク（集音装置）により映像・音声情報を記録・再生する装置です。

※2 アイマークレコーダー：乗務員が装着したカメラで目の動きを映像化して記録する装置です。

※3 安全確認装置：乗務員が安全確認を必要とする箇所を点灯などで示す装置です。



ドライブレコーダー



運転訓練車



運転訓練車内のモニターで運転操作をチェック



アイマークレコーダーを装着した運転訓練

●西東京バス

西東京バスでは、毎年、全営業担当員（運転者）を対象とした「営業担当員定期研修」を約50回開催しています。この研修は、社長懇談会、事故防止研修、運転実技訓練の3部から構成され、まず社長懇談会では、社長が会社方針の説明を行うほか質疑応答を通じ、直接対話することで、現場の声を安全対策につなげています。

次に事故防止研修では、座学教育で運転者の「運転特性」「運転の癖」「運転の弱点」の自覚を促し、事故の未然防止・再発防止につなげています。運輸安全マネジメント、事故の根本原因分析、ヒューマンエラーの発生メカニズム、全車両に搭載しているドライブレコーダーの映像による事故事例研究などの基本カリキュラムに加え、バスジャックマニュアルの改訂などその時々の特ピックスも学ぶようにしています。

実技訓練では、実際に発生した全事故の分析結果をベースに、障害物などを配置した全長約600mの実技コースを走行し危険箇所を体験することで、注意すべきポイントや対処法を身に付けるようにしています。



運転実技訓練の様子



ドライブレコーダーの映像を使った研修

●タクシー

京王自動車では、「運転の基本動作」の徹底に向けて、「無事故・無違反コンテスト」や、「小集団活動」の中で、乗務員同士がドライブレコーダーの「日常画像」を視聴しながら互いの「運転の基本動作」をチェックする活動などを行っています。



ドライブレコーダーのモニタリング画面

●トラック

京王運輸では、2008年に（公社）全日本トラック協会が認定する「安全性優良事業所」の取得率100%（全6事業所）を達成しました。（業界全体の取得率は21.6%）



安全性優良事業所に交付される「Gマーク」が貼付されたトラック